**《講演要旨原稿の書式》**

横100 mm，縦150 mmに納まるように作成してください。

文字サイズは10 pt 以上12 pt以下としてください。

例えば以下のページ設定（A4 縦）のもとで，以下の通り設定すると、所定のサイズになります。

余白：上 75 mm，下72 mm，左右各55 mm

一行字数：27文字，行数：27行

フォント（和）：MS 明朝11 pt，（英）：Times New Roman 11 pt

1）著者名とタイトルの間はコロン“：”とする。

2）共同研究の場合は、演者の左肩に“○”をつける。

3）著者名：タイトルと本文の間は1行空ける。

4）共同研究で研究者の所属が異なる場合は，“\*”記号で区別する。

5）所属名は公式な略記を使用する。

**《講演要旨原稿の書式見本》**

○大塚泰介\*・有田重彦\*\*：八幡湿原（広島県山県郡北広島町）の珪藻

八幡湿原は，北広島市の八幡高原に点在する中間湿原の総称である。中間湿原を代表するヌマガヤ‐マアザミ群集は，八幡湿原の研究に基づいて命名された。ただしその中には，湧水湿原と谷湿原が混在しており，また泥炭の堆積程度も湿原によって大きく異なる。

水源や泥炭堆積の程度が異なる4つの湿原，6つの調査地点で，2012年11月18日に調査を行った。陸上のオオミズゴケ，水中の枯死した植物，底泥など，その地点の代表的な付着基質から2試料ずつ，計12試料を採集した。

電気伝導度 (3.6-3.9 mS m-1)，pH (5.9-6.6)，溶存態リン濃度 (0.04-0.11 µmol l-1) については，地点間の違いが小さかった。溶存態窒素濃度は止水と流水で大きく異なり，止水の4地点では5.6-8.9 µmol l-1の範囲だったのに対して，流水の2地点ではそれぞれ43.9，53.2 µmol l-1 の高値を示した。

オオミズゴケ上では湿原ごとに優占種が異なり，*Aulacoseira alpigena*，*Eunotia compactata*，*Fallacia vitrea*が優占種となった。止水中の植物遺体上では *A. alpigena*あるいは*Frustulia saxonica*が優占種となった。泥炭堆積が見られる長者ヶ原湿原の底泥上では，*Brachysira brebissonii*が優占種であった。流水中の植物上（枯死体およびでは，*Diatoma mesodon*，*Eunotia minor*，*Fragilaria gracilis* が優占種となった。

（\*琵琶湖博物館，\*\*たんさいぼうの会）